

令和7年度 岐阜市未来のまちづくり懇談会 議事録（概要）

【日 時】 令和7年9月26日（金） 14時00分～16時00分

【場 所】 岐阜市役所6階 6-3会議室

【出席者】 益川浩一座長、石井浩二、大塚敏子、川島政樹、國枝菊江、栗山尚子、
高木幹雄、辻有記臣、土井宏樹、道家晶子、福島正通、山中里美
【敬称略】

1 開会

2 説明

- ・ 事務局より資料に基づき説明

3 意見交換

- ・ 社会動態が転入超過になっていることや、とりわけ30代40代の転入超過は心強い。30代40代の子育て世代には子どもたちがついてくる。小さい頃に岐阜市に住んでもらえれば、一度外に出てもまた帰ってくる可能性が高くなるため、ポジティブに捉えている。
- ・ 「岐阜市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」において、市民の理想の子どもの数と、出生数にギャップがあるところが気になる。各家庭で様々な事情があると思う中、踏み込んだようなインタビューや質的に掘り下げるなど、要因を探っていくことは重要。
- ・ 普段接している20代前半の世代に、将来子どもを持つことについて聞くと、持てみたいと言う声の方が多い。世間一般に言われる経済的な課題や報道の影響から、子育てはとても大変というイメージがネックになっているのでは。
- ・ 若い頃は行政との繋がりがほぼなく、子育てに入ると急に子どもの健診や様々な手続きで行政との関わりが出てくる人が多いと感じる。こうした場合、急に子育てで支援を受けることになるためハードルが高い。
- ・ 様々な子育てサービスがある中で、サービスにたどり着くまでのルートが多い。母親の立場からすると、どこに何を聞いたらいいのかわからないというような声も聴くので、子育てに関する情報を一つのプラットフォームにして、デジタルの中で様々なことが完結するような仕組みも作ってけると良い。

- ・ 今後の日本社会は、どうしても外国人の力が必要になってくるので、外国人への支援やサポートも重要。
- ・ 市立の新大学設置について、期待が大きい。まちづくりに関する取り組みを市と大学が一緒にやっていけるようにすると全国的にも注目され、様々な政策が前に進みやすくなるのではないかな。
- ・ 少子高齢化に問題・課題は多いが、プラスに転じて捉える視点も大事と感じており、高齢者の知見を子どもたちの育ちや学びに活かしていくような考えを持っている。以前、国の審議会で、「高齢社会」を「幸齢社会」と表現することを提案されたことから、幸せの年齢を重ねるという意味で、超高齢社会をプラスに捉えるような視点も、まちづくりに重要。
- ・ 若い人は、子育てや結婚、出産にネガティブなイメージを持っている。最近ではライフデザイン教育といって、ライフをどう作り上げていくのかという教育が大事だと言われていることから、考えていく必要がある。
- ・ DXの推進や、外国にルーツを持つ人びとを含めたダイバーシティの実現も非常に重要な課題。
- ・ 岐阜市の産業として、繊維業のみを扱う事業者が年々減少しており、ライフスタイル全般を扱う事業者が増えてきている。
- ・ EBPMに基づいた政策立案は賛成するが、KPIの設定は非常に難しく、目標設定については十分に吟味する必要がある。
- ・ 市民意識調査から、2021年より2025年の方が中心市街地の賑わいが高まっているとの結果が出たが、2024年に高島屋が撤退しており、中心市街地は空き店舗が多く非常に苦労している。これは行政や民間の取り組みが市民の目に触れる中で、賑わいを高める努力をしているということを指した結果なのかも知れない。そういった観点で見るとEBPMは、データの見方の中で様々な評価軸があり、論理的に説明することは難しい部分もある。
- ・ 30代の転入超過は、マンションやアパートは中心市街地、岐阜駅を中心に多く建設されていることが主な要因だと推測できるが、この先も増え続ける訳ではないことを考えると、何か違う取り組みに変換していかなければ人口がピークアウトしてしまう。
- ・ 「第3期岐阜市地域福祉推進計画」のデータにもあるとおり、メンタルヘルスで休業する従業員が増えている。
- ・ 様々なデータを総合的に研究・分析をして、課題の抽出・提案するシンクタンク機能が、行政・民間に今後必要になってくる。

- ・人口減少はビジネスにおいて、マイナスの要因。行政としても抗う必要がある。絶対数が増えなくても密度を高めるような、エリアや業種に対する政策が必要。
 - ・ライフデザインとも絡んで、ワークライフバランスやメンタルヘルスは非常に重要。
 - ・シンクタンク機能は、外部機関と連携しながら更に進化させていくことが重要。
 - ・人口減少は全国的な課題であり、その解決は困難であるが、関係人口や交流人口も絡めつつ、しっかりと考えていく必要がある。
-
- ・社会動態として、転入超過が続いていることは非常に喜ばしい。特に30代から60代以上の転入が多いことから、人生経験を重ねて、環境重視の生活にシフトすることが想定できるため、その世代に向けた政策を強化すると良いのでは。
 - ・超短時間雇用として、障害者を雇用した結果、双方にプラスの効果が表れている。
人口減少で労働力の確保が困難な時代となっており、多様な人材の活躍推進は重要な施策に繋がっていく。障害者の法定雇用率引き上げに対しても、情報を共有・提供できるような体制をとると良い。
 - ・防災のイベントとして、自分自身の居住エリアでこういった避難経路や避難場所があるのかを、地図を作って見える化をして、被害があったときの想定を体験する取り組みを行った。参加者から非常に高評価だったため、岐阜市としても行ってはどうか。
-
- ・社会課題は複雑・多様化してきており、単独の部署の取り組みだけでは解決は難しくなっている。組織間や諸団体と連携した取り組みが非常に重要。
-
- ・高齢化について、夫婦だけで老老介護の世帯が非常に増えており、これらの方々から相談を受けるケースが増えている。
 - ・調査では、多くの方が、年を取ってからも在宅でいたいという希望があるが、希望が叶えられる数は少ない。ただ訪問診療を行えるクリニックが年々増えてきており、訪問看護も増えてきているので、体制は整ってきている。しかし、家族の力も必要なので、難しい部分もある。
 - ・岐阜市内は老人ホームを中心とする施設が数多く、愛知県より費用が安いことを理由に入ってくる方が結構いる。サービスを受けるために住所を変更する必要があるため、高齢者の転入が増えている背景には、こういう状況もあるのでは。
 - ・（メンタルヘルスに関連して）障害者手帳について、医療としては、進んで申請して、障害者手帳を取得してもらおうという方向性。その方が家の中で引きこもっていた人たちが外へ出て社会との繋がりを持っていける。

- ・病気の現状データから、自分の健康状態に満足してみえる方が多いとは感じるが、生活習慣病が多く、いかに早期に発見していくかが大切。岐阜市でも特定健診等進めてもらっているが、受診率は低いため、医療機関としても受診を勧めている。
 - ・岐阜市の健康ウォーキングの参加者が増えてきて、良い傾向。
 - ・柳ヶ瀬のウゴクテも、利用者は多く、気軽に運動ができる場所として勧めやすい。自分も利用してみたが、施設の方に丁寧に教えてもらえた。
 - ・一人暮らしの高齢者ガイドブックは、わかりやすく、使いやすく感じた。
 - ・岐阜市民病院について、他の急性期病院と比較すると少し遅れていると感じる部分があるが、救急時の搬送先として受け皿になることを期待している。医師不足などもあるが、今後も医師と設備の確保を求めたい。
-
- ・65歳以上の人の単独世帯が増加しているデータからも、地域包括ケアシステムをいかに構築していくかが急務。病院に来てもらうタイプの医療福祉サービスではなく、こちらから出かけていくアウトリーチ型が重要になってくる。
 - ・人生100年時代として、シニアがウェルビーイングを実現するための取り組みも重要。
-
- ・自治会加入者が減っており、災害が起きた際に自治会に加入していない人をどうすれば良いかが課題である。
 - ・私の居住地区は、場所柄、若い人に人気があり、住民が増えてきた。
 - ・社会動態で、転入超過となっているが、転入理由が働く場なのか住みよさなのか詳細に調査し、そこから先々の市政運営に繋げていくと良いのでは。
-
- ・自治会加入率は減少傾向が続いており、加入率が高い地域でも下落の幅が大きい。ただ、岐阜市は、地域の繋がりづくりの基盤として、自治会コミュニティ（エリア型コミュニティ）を非常に重視していることから、全国的に言われているとおり、自治会の役割を今一度考え直す時期に来ている。
-
- ・就農者が減ってきている。資材高騰から農業用ハウスを建てるにも多くの費用がかかり、新しく農業に入りにくい状況。
 - ・収穫量は減ってきており、農業従事者の高齢化も進んでいる。このままでは生産者がいなくなり、供給が不足する状況になると危機感を抱いている。後継者が定年後に地元に戻ってきて農業を継ぐパターンもあるが、65歳からでは体力的に厳しいと聞く。地域ぐるみで考えていかないといけない中で、農業への理解について啓発活動ができれば良い。

- ・農家の方は 80 代でも現役で活動されており、健康寿命には動くことが大切と感じる。ある程度年齢を重ねた人が、農業に触れ合う機会を作って体を動かすことは非常に良い。
 - ・有機栽培のシェア農業として、農家ではないサラリーマンの方が仕事をしながらできる取り組みを進めている。週 1 回や月 2 回のコース等、働きながら参加できるようハードルを下げた取り組みで考えている。
 - ・農業を通して障がい者が活躍できる場として「ぎふはっぴいまるけ」を行っている。引き続き、農福連携を進めていければ良い。
-
- ・複数の分野で繋がりながら、様々な政策を進めていく方が効果的である。相乗効果・シナジー効果を生み出しながら、より良い施策が推進されていき、地域住民の幸せに繋がっていく。様々な分野や組織で連携しながら進めていくことが大切。
 - ・自治会もそうだが、農業に関しても DX で変わってくるかもしれない。スマート農業についても今後大きな課題になってくる。
-
- ・企業立地の推進について、東海環状自動車道の開通により、黒野や三輪地域でも可能性が広がる。働く場の提供に繋がることから、引き続き企業立地の政策を推進してほしい。
 - ・ここ数年、中小企業から若手人材の確保が課題といった相談を受けることから、愛知県の大学で中小企業の合同企業説明会を開催した。引き続き、こういった取り組みは必要と考える。
 - ・市役所跡地への本社移転について、今年度着工し、2027 年度の開業に向けて色々と議論している。岐阜公園の整備や JR 岐阜駅前の再開発との連携も検討しながら、中心市街地の人の流れを考えていく。
-
- ・岐阜大学の学生も愛知県出身者が 6 割程いるが、就職時に愛知県に戻る傾向が強いので、いかに岐阜市に留まってもらうか考えたとき、市内企業について学生や若者たちによく知ってもらう機会をつくることは非常に大事。
-
- ・市民意識調査における「岐阜市民であることに誇りを感じる人の割合」が少ないことについて、行政の取り組みが市民に伝わっていないのが残念。シビックプライドをさらに高めるために、岐阜市にしかない文化や場所をもっと外部に発信することや、住民参加型のプロジェクト・イベントを増やしていくと良いのでは。

- ・資料3における環境分野について、高止まり傾向が見えることから、もう少し市民や事業者が自分ごととして取り組めるような働きかけが必要。
 - ・市民の健康状態の中で高血圧が一番多いことについて、減塩のPRや働きかけをすると良いのでは。
 - ・運動する市民が増えるよう、ウゴクテの施設等をもっと活用しやすい形に導くような働きかけをすると良いのでは。
-
- ・シビックプライドの醸成について、行政として様々な取り組みを行っているが、もう少し工夫が必要かもしれない。
 - ・SDGsの推進や健康施設の活用に関し更に力を入れていく必要がある。
-
- ・魅力ある大学をつくる等、若い世代をいかに岐阜圏域から逃がさないかの観点が重要。
 - ・地方行政として、受け身ではなく自らで国の補助金を取りに行く姿勢が重要。
 - ・今年の国内旅行者数は、昨年に比べ微増する推測。内訳は、29歳以下の女性が最も多く、次に30代の女性、30代の男性、70代の女性というデータが出ている。岐阜市においてもターゲットを見据えた戦略を考えても良いのでは。
 - ・岐阜市は魅力あるコンテンツも多いので、点を面で繋ぎ、回遊性を生み出すと良い。
 - ・旅行者のニーズから見ても、岐阜市はポテンシャルがあり、方法次第で、可能性を大いに広げることができる。
-
- ・国の補助金をうまく活用して、市政を進めていければ良い。
-
- ・ボランティア活動の推進を今後も進めていきたいが、ボランティアや地域活動の担い手が少なくなってきたおり、地域福祉活動継続への不安がある。
 - ・地域福祉推進計画を作成している中で、市民意識調査の方法が変わったことがどう影響するか気になるので、一緒に検討していきたい。
 - ・ボランティアや地域活動者の確保のためにも、様々な取り組みがまちへの愛着を育んでいくことや、市民意識調査項目の「このまちに住み続けたいと思える」ことに繋がっていくと良い。
 - ・介護しながら働く人が増えてきており、地域・地元企業との連携や、福祉や介護の理解を深めてもらう取り組みで、岐阜市内での地域福祉活動をより進めていきたい。
 - ・今までの地域福祉活動をさらに充実していく活動として、コミュニティソーシャルワーカーの配置を開始したが、福祉分野だけでなく様々な分野の方と共に進めていく必要がある。

- ・働くことだけではなく、ボランティアや地域活動への参加も生きがいに繋がる。多様な形での生きがいを市と共に考えていってもらっている。
- ・本会議は様々な立場から意見を聞ける貴重な場であるため、より少人数に分割して意見交換できるように開催すると良いのでは。
- ・各計画の進捗の結果が悪くても悲観することなく、岐阜市の良いところを活かしてみんなで盛り上げていきたい。
- ・教育や福祉の分野において、子どもたちの意見表明や参画の機会を促進する中で、子どもたちの豊かな学び・育ちを地域ぐるみで支えていくような方向性で施策を考えてほしい。